

もりおか mirai おでかけミーティング実施報告書

開催日時	令和7年11月14日（金）午後1時～午後3時			
開催場所	岩手県立大学共通講義棟307 講義室			
出席者	鈴木真吾	鈴木聖子	佐藤尚弘	山崎智樹
	千葉順子	野田尚紀	繩手豊子	庄子春治
	野中靖志	小笠原秀夫	太田隆司	千葉伸行
	兼平孝信	天沼久純	中村一	
	岩手県立大学学生11人			

【開催内容】

鈴木真吾議員及び鈴木聖子議員の司会進行により、岩手県立大学 高嶋裕一 学生支援本部長及び千葉伸行 議会運営委員長の挨拶の後、「住み続けたくなるまち 盛岡市」を目指して」をテーマにワールドカフェ方式による意見交換を行った。

参加者の所感等は次のとおり。

1 参加学生の所感

○ 参加したきっかけ

- ・大学からの周知。
- ・普段講義を受けていたり先生から案内があったり、メールを通して複数の先生から案内があったから。
- ・行政に興味があったから。
- ・友人に誘われたため。
- ・実際に市政に関わる議員の方々の、まちづくりに対する意見が聞けると思ったから。

○ 得られたもの

- ・議会に対する近づきやすいイメージ。
- ・勉強と経験を積むことが大事だということ。
- ・考え方。
- ・否定せずに話し合うというルールにより、自分の意見を恥ずかしがらずに発言できた。周りの人の発言も盛んなため、自分に無い考えを得ることができた。今回の得た新しい視点を参考に、これから学びに活かしていきたい。
- ・改めて盛岡の魅力を再認識できた。また、議員の方が何を問題視して取り組みを行っているのか、知ることができた。

- ・議員の皆さんとゼロの距離で率直で建設的な議論ができた。盛岡市に対する新しい視点を沢山見つけることができた。
- ・「働く」ことに関する現実的な意見と、子育てについての支援制度についての新しい学び。
- ・盛岡市議会議員の人柄の良さとまちの未来への熱量を感じられた。
- ・議員さんという、いつもは全く話すことのできない人と盛岡市について話し合ったことで、さまざまな視点で盛岡市を考えることができ、またカフェのようなラフなスタイルでの話し合いであったのでリラックスして本音をしっかり話すことができた。
- ・ずっと住み続けている身としては気づかなかつたことが知られて、人と話をし、多数の視点からの意見を聞くことの大切さを知ることができた。思っていることを紙に書き出し言語化することで、より意見が伝わるように感じた。議員さんとの対話でかしこまりすぎずに話すことができ、自身の気さくな意見にも真剣に耳を傾けて聞いてくださったおかげで、積極的に意見が発信できた。
- ・年代（議員さん、先輩の方）や出身地、盛岡在住年数が全く異なる方の複数の意見を聞いて、新たな視点を得られた。

○もりmiraに対しての意見

- ・また参加したい。
- ・事前通知をより早くして頂けたら、自分の予定とも合わせることが可能なため、参加しやすくなると感じた。
- ・議員と対話ができる機会が他にもあつたらお知らせしていただきたい。
- ・席替えは生徒と議員の回りかたは決めておいても良いと感じた。
- ・学生にとってとても貴重な体験だと思うので、このような機会を増やしていただけるとありがたいです。
- ・堅い会議のイメージでしたが、アットホームな雰囲気で良かったです。案内の時もそれを言った方が良いと思います。

2 参加議員の所感

○参加しての所感

- ・お話を伺えて良かった。もっと参加者数、時間が増えれば良い。
- ・日頃、学生と対話する機会がほとんどないので、とても有意義であった。
- ・若者の視点から盛岡市の現在、目指すべき将来像の話が聞けて大変有意義なイベントでした。
- ・学生さんの若い視点からの様々な考えに触れてることができて非常に有意義だった。

- ・久しぶりに、若い人の意見を聞いて頼もしく思いました。仕事に対しての考え方や、生き方など、私たち世代と大きく違わない事にホッとしました。住みやすい盛岡を目指して、改めて気持ちを引き締めて頑張ろうと思います。
- ・非常に刺激と学びをいただきました。本当によかったです。また、ラウンド3にもとのテーブルに戻って来て視点を広げて意見交換できたことがよかったです。
- ・学生さんは2年生でしたが、市内での就職を考えているようでしたので、大変嬉しく思いました。
- ・今回のテーマの設定は、率直な学生の意見を聞く上で適切だったと想う。
- ・同席した学生は市外、県外出身であり、かつ、滝沢市在住であったが、盛岡市を我が町のように思っていたことは大変ありがたいことである。間もなく社会へ出る大学生の意見は、未来を見ながらも現実的である。
- ・とても良い話し合いになりました。学生さんの意見に触れ、少し若返った思いです。
- ・学生さん方が考えている住みよいまちにするための力を入れる政策がわかった。

○意見交換の内容やテーマについての意見

- ・もう少し具体的でも良いかもしれません。
- ・住み続けたくなるまち 盛岡のテーマをもう少し具体的なテーマにすることも良いかと思う。
- ・住み続けたい盛岡市にするためにはハード事業だけではなく、人との交流や生きがいづくりなどソフト事業が重要だという議論がされました。
- ・良いテーマだったと思います。3ラウンドでもとに戻るというのも振り返りに良かったと思います。
- ・いいと思います。
- ・ジブンゴトにし、意見だけではなくしっかりと行動すること、発信の重要性を感じました。
- ・1番に考えているのが仕事のことでした。やはり盛岡市内でも色々選択肢が多くなければいけないと、感じました。
- ・今回のテーマと関連するが、盛岡に初めて来た時の感想と、実際に暮らして数年経つからの感想を対比しても興味深いと考えます。
- ・就職先（働く場所）や遊び場（余暇を過ごす場所）など市内には適当な場所が不足している。自然に囲まれた落ち着いた生活しやすいまちとの意見もあった。テーマは、個人的意見として「○○続けたい□□」はSDGsの関係か、あらゆるものにつけられているが、単純に「住みたいまち」「働きたいまち」で良いのでは。
- ・住みづけたい町について。“人ととのつながり”を大切にしたいという意見。暮らし

の安心、働く場の確保を求める意見。堅実な意見だと思いました。

・学生さんも地域とかかわりを持ちたいという気持ちがあることがわかった。

○意見交換の中で、心に残った学生の意見や言葉

- ・人の多さという都市性を求めつつ、東京は追うべきでない、独自性を活かし変化を求める。
- ・世代間の交流や対話が大事である、という意見
- ・盛岡にはいいものやいい事業がたくさんあるので、これを必要な方に周知する方法をもっと充実すべきという意見があり、共感しました。
- ・新しい失敗を成功の一部と捉える。
- ・出産のことについての話。
- ・チャレンジできる環境と、挑戦して失敗した時に受容する環境の重要性。必要な分断と不必要的分断の明確な線引き。
- ・色々仕事を選ぶ事が出来ないことと、仕事をイヤでも辞められないことを話していました。
- ・当市は大学生の遊び場が少ない。
- ・意見の中に、住民全体が地域課題を考えるまち、というものがあった。同席した学生は地域に関心が高く、地域活動、お祭り的なものも含め、参加意識は高かった。但し、連絡方法において、回覧板や個人へのビラのようなものでは参加しにくく、大学やゼミ、グループなどへの案内であれば、友人らと誘い合って参加しやすい、とのことであった。
- ・秋田、青森出身の学生さんの盛岡の印象～自然豊かという意見に自らも再発見した思います。“将来ビジョンが立てられる町”という意見には、なるほどと思いました。
- ・「お金がかかるまちがいい」と言わされたこと。地域とかかわりをもちたいという意見。

3 意見交換会の振り返り（当日の個人ワークより）

別紙一覧のとおり。

【11.14】岩手県立大学 意見交換会振り返り（個人ワークより）

No.	「住み続けたくなるまち 盛岡市」はどんなまちですか？	そんなまちを実現するためにどんな取り組みが必要ですか？どんなことをしたいですか？
1		若者の意見が街づくりに積極的に反映される街にする 老若男女、個性を認め合い、少しずつ街づくりに参画できる街にする もりmiraを年2回開催する（春1年、秋3年）
2	多くの人々が違う考え方をしながら盛岡市の発展を目指す街 自然や金銭の不安を解消し、日々送れる街 過去から学び、常により良い未来を想像することができる街	結果に対して過程をより多く発信していく 価値の大きそうなものではなく、自分が良いと感じたものを素直に捉える 世代間の交流するイベントを増やす
3	治安のいい街 自然景観のいいまち 就職先があり賃金のいいまち 食べ物、水がおいしいまち 交通の便がいいまち 教育環境のいいまち（子育て）（小中高大学、幼稚園）	やさしい人々 病院
4	働き口が充実していて、安心安全であり、新たな発見であふれている街	
5	自然豊かなことが維持され、身近に病院などの施設があり、交通の便に困らない街	生活するのに便利だけど、お金がかからない
6		市内に働き続ける自分が望む仕事につき、1つの仕事で食べていける賃金。残業があまり無く、自分の時間が持てる会社、事業所を増やしていく。国が全国一律同賃金にする。「つきたい職種がある程度ある」
7	"東北のエルメス"など技術・文化とトレンドが融合し、誇り・収入・出会いがあるがんばらない街・盛岡	
8	盛岡に居る人と適切な距離感を持てるまち	今回のような壁をなるだけ少なくした話し合いの場の提供と、その話し合いへの参加が必要だと考える。お互いの理解が得られる環境がいちばん心地よいものだと考える。
9		世代によって考え方が異なると思うが、若者世代からしたら、人生設計の上からも「生活が豊か」ということをまず考えるとと思う。自分が望む職業に就けるということもあるし、結婚・子育てを考えると環境が大きく作用すると思う。収入が多い方がよいし、環境も大事。
10	自分自身の社会における「存在価値」を実感し、盛岡でしかできないものにチャレンジできるまち 全世代が思いを共有し、幸せを毎日感じられるまち	
11		街あるきをしながら食事も楽しめるように、エリアづくりをする 出産や子育てが安心してできるように、産科医の確保や施設整備を行う 所得の安定ができるような環境づくり（企業の立地や就業機会の充実を目指す） 自然動物との共存をするための環境づくりをきちんと行う
12	歴史や文化を守るまち 就職できる業種の幅が広いまち（転職もしやすい） 住民が優しいまち 物価が高すぎないまち	歴史や文化に触れる機会をつくる（ツアー・体験会） 就職支援を充実させる

【11.14】岩手県立大学 意見交換会振り返り（個人ワークより）

No.	「住み続けたくなるまち 盛岡市」はどんなまちですか？	そんなまちを実現するためにどんな取り組みが必要ですか？どんなことをしたいですか？
13	働くことへの選択肢があるまち 出産・育児に対する支援が多いまち	企業とのマッチングシステム整備 職場でのストレスチェック 出産前後の住まい提供
14	まちの規模と自然環境がほど良く調和しているまち 人と人の程良い距離感が保たれたまち	
15	①多様な働き場所のあるまち ②公共交通が充実し、コンパクトなまち 地場産品（人と物）を生かした産業あるまち 歴史と伝統文化（アート）が息づくまち	①中核的な産業基盤のもとに、それを補完、付随する産業が集約する施策の推進 ②中心市街地だけでなく、大きなコミュニティ内で生活が完結できるまち
16	①他の市町村を引っ張るまち ②住民の市への理解度を高める ③住民主体のまち	①全国各地の市町村の優良事例を取り入れる。連携した取り組み（他の市町村、NPO） ②教育に地域学習を組み込む（高校生が発表）。憩いの場を作る（交流の場） ③パブコメを積極的に。住民主導のイベントを行いやすい法整備（市が背中を押す）
17	孤立せず、他人（若者から高齢者まで）が会話できている街	①小学校での地域を学ぶ学習 ②簡単なイベントを開くことが苦にならない ③子どもの見守りを地域・会社が主体的に動いている
18	将来のビジョンが立てられるまち	働く場がないわけじゃない・遊ぶところがないわけじゃない・人との交流の場だってある・色々な人材だってそろってる・行政も何もしてないわけじゃない ⇒情報にアクセスしやすくする。欲しい人に届けられる仕組みを作る。 それぞれの層の情報入手経路を絶え間なく分析する。
19		人と人の交流・出会いがある 生活しやすい（インフラ・街並み・店） そこに住む理由がある（=外に出る理由がある）→仕事（働く場所がある）・人間関係・住みやすさ（アクセス、買い物、重要施設・そこにしかないもの）
20	①人っこいい－人情－、水っこいい－水－、風っこいい－空気－～自然豊かな町～ ②子育てから高齢期まで安心してくらせる町 ③その上にたって、くらしに色どりのある、様々な文化・スポーツなどに親しむことのできる町	①この良さを残し、将来につなぐ ②子どもを大切にし、医療介護へのアクセス。移動～交通手段の充実
21	仕事があり、生活をする上で安全・安心にくらせるまち ちいさい子どもから高齢者まで便利にくらせるまち いつまでも友人との交流や、地域の人々と交流ができ、いきがいを持って生きていけるまち	人と人が交流できるコミュニティをつくり、出会いを支援するしくみをつくる取り組みが必要である
22	他の地域から移住してきた人もイベント（町づくり）に参画しやすいまち	自分も友達を誘ってイベントへ参加する 地元に帰って、盛岡の良さを伝える
23	①自然・歴史・ヒトといったすでにある魅力の活用 ②（冬の寒さなど）弱みを魅力とする発想の展開 ③1人ひとりが”ジブンゴト”として自らチャレンジし、そして失敗すらも応援していくまち、ところ	自分からまずやります！ 議員・経営者として率先して町の魅力を発信します！

【11.14】岩手県立大学 意見交換会振り返り（個人ワークより）

No.	「住み続けたくなるまち 盛岡市」はどんなまちですか？	そんなまちを実現するためにどんな取り組みが必要ですか？どんなことをしたいですか？
24	いろんな価値観の人たちが住みやすいと感じるまち⇒本質的な多様性を認め合うまち チャレンジと失敗を認められるまち	それぞれの役割を認識して、"自分事（主体性）"として行動する 失敗をおそれてチャレンジしないのではなく、成功に向けてのチャレンジが認められ、そのうえでの失敗が糧として受け入れられる まちづくりの話し合いがあちこちで行われている